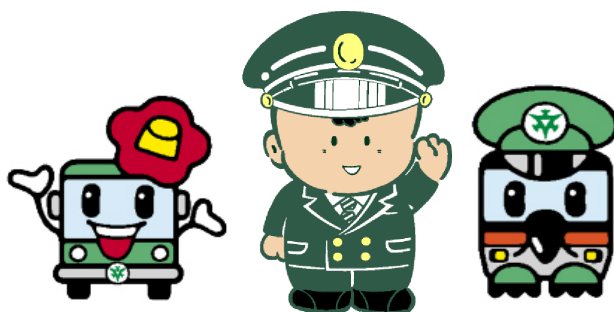


平成18年度 交通局運営方針

～お客様に愛され、信頼される市バス・地下鉄をめざして～



平成18年6月
京都市交通局



市バス事業の概要



市バスは、74系統750台のバスが市内を網の目のように運行し、1日で地球を2周する約7万8,000kmを走り続け、毎日約32万人のお客様にご利用いただいています。これは、市内のバス交通のうち85%を占めており、まさに市内交通の中心的な役割を果たしています。

しかし、お客様のご利用が少なく、民間バス並みのコストで運行しても赤字となる、いわゆる「生活支援路線」の維持が厳しくなっていることから、どのようにして確保していくかが課題となっています。



地下鉄事業の概要



地下鉄は、都市空間を有効に活用しつつ、地域の発展と活性化に極めて大きな効果をもたらすとともに、CO₂排出量が自家用車の20分の1であり、地球環境にも大変優しい公共交通機関です。京都市の地下鉄は、烏丸線と東西線を合わせて28.8kmの路線で、2路線、37編成、222両で毎日地球1周を超える4万9,000kmを運行し、毎日約31万人のお客様を安全・確実にお運びしています。

しかし、その便利な地下鉄も、1km伸ばすのに200億～300億円もの巨額の建設費がかかることから、その債務をどのようにして返済していくかが課題となっています。



平成18年度の1年間、交通局では、



市バス

更なるサービスアップと徹底したコスト削減に努めるとともに、市バスのネットワークを堅持するため、「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」を継続して行うなど「生活支援路線」を全力で維持します。

地下鉄

平成16年11月に開通した東西線（六地蔵～醍醐間）に続き、東西線（二条～天神川間）の平成19年度中の早期開通に向けて延伸工事を進めます。

安心して利用していただけるよう、より安全な市バス・地下鉄を目指します。

職員の接遇マナーアップにより、市民に愛される市バス・地下鉄を目指します。

人件費・経費の削減や、更なるサービスの向上により、民間のバスや鉄道事業者には負けない事業運営を目指します。

市バス・地下鉄の各施設のバリアフリー化や、環境に配慮したバス車両や燃料の導入など低公害化の取組を進め、人や環境に優しい市バス・地下鉄を目指します。



1 安全で快適な市バス・地下鉄の運行の確立

… 1ページ

2 お客様の増加、収入増のための積極的な営業推進

… 4ページ

3 一層の経営健全化の推進

… 6ページ

**4 平成19年度の地下鉄東西線(二条～天神川間)の
開通に向けた取組の推進**

… 10ページ

5 市バス・地下鉄のバリアフリー化、低公害化の推進

… 11ページ

**6 京都市が進める「歩いて楽しいまちなか戦略」への
積極的な参画**

… 12ページ

1 安全で快適な市バス・地下鉄の運行の確立



(1) 市バス・地下鉄の安全対策の推進

【自動車部運輸課、高速鉄道部営業課・運輸課・施設課】

⇒ 公共交通を安心して利用していただけるよう、より安全な市バス・地下鉄を目指して取組を進めます。

18年度予算額は
1億9,441万円です。



18年度は...

- 市バスの事故防止を徹底するため、管理の受委託事業者を含む「全市バス安全運行推進会議」の新設や、全営業所に「副所長」を配置するなど、的確な事故防止策を確立し、現場における事故防止と安全運行の取組を一層強化します。
- 地下鉄では、運行に関する責任者として「安全運行管理官」を設置するとともに、消防局と協力して設置した「京都市高速鉄道防火安全対策委員会」等を中心に災害やテロを想定した訓練の実施や対応マニュアルの整備など、より安全な地下鉄を目指した取組を進めます。
- 地下鉄駅での火災対策として、ホーム階とコンコース階の間に、防火扉等を順次設置していきます。(17年度～21年度、18年度は4駅に設置予定)
地下鉄烏丸線に乗り入れている近鉄車両への車両間転落防止装置の設置が、18年度中に完了することとなり、烏丸線を運行しているすべての車両に車両間転落防止装置が付きます。

17年度の主な取組

- ・市バス運転士の実技運転研修受講者
136人受講
- ・「京都市高速鉄道防火安全対策委員会」における訓練の実施
平成17年6月 京都市役所前駅にて鴨川洪水を想定した訓練実施
平成18年3月 六地藏駅にて列車火災を想定した訓練実施
- ・地下鉄烏丸線の車両間転落防止装置設置数※... **全20編成で設置完了**
2編成に設置 ※東西線は、ホームドアがあるため設置不要
- ・地下鉄駅への防火戸等の設置
2駅に設置(くいな橋、醍醐)

(2) 路線・ダイヤの改善

【企画総務部企画課、自動車部運輸課】

⇒ お客さまにお乗りいただきやすい市バス路線・ダイヤにします。



18年度は...

- 「京都市交通事業審議会」の提言や「京都のバス事業を考える会」の答申を踏まえて、地下鉄東西線天神川駅開業とJR新駅開業に適切な対応をはじめとする系統の見直しの検討を行います。お客様に分かりやすい毎時同時刻発ダイヤなどパターンダイヤ化を促進します。

17年度の主な取組

- ・鉄道へのアクセス強化(南2号)
- ・乗継モデルの改善(27号と203号)
- ・遅れの生じにくいダイヤ設定(区間運転時分の見直しなど)
- ・パターンダイヤの拡大、利用実態に応じた運行回数設定

(3) 市バスの走行環境改善に向けた取組

【企画総務部企画課、自動車部運輸課、高速鉄道部運輸課】

⇒ 市バスが遅れずに走れるように、バス専用レーンの確保などに取り組みます。

18年度予算額は
1,000万円です。



18年度は...

- 走行環境改善担当を設置し、走行環境悪化の大きな要因の一つである違法駐停車車両の排除に向けた取組の強化を図るとともに、京都府警察との更なる連携を図ります。
- 市民やドライバーに対してバス専用レーン周知のための啓発キャンペーンを行います。春と秋の観光シーズンには、職員のボランティアによる主要駅、バス停留所等での旅客案内サービスを引き続き実施します。

17年度の主な取組

- ・公共車両優先システム(PTPS)...累計 11.5km設置(平成18年3月末現在)
- ・バス専用レーンの設置...総延長91.2km(平成18年3月末現在)
- ・観光シーズンにおけるお客様へのご案内と特別警戒...延べ870人参加(17年度実績)
- ・職員による立地旅客案内サービス...延べ384人参加(17年度実績)

(4) バスロケーションシステムの増設 【自動車部技術課】

⇒ バス停でお待ちのお客様に、市バスの接近情報をお知らせする「バスロケーションシステム」を設置します。

18年度予算額は
1,500万円です。



18年度は...

- バスロケーションシステムを新たに8基設置します。

今までの主な取組

- 2年度 バス総合運行システム・バスロケーションシステムを一部運用開始
(桂駅西口、京都駅前のりば、西大路通、下鴨・河原町通)
- 5年度 今出川通、東山通などで運用拡大(42基)
- 6年度 竹田街道、九条通などで運用拡大(66基)
- 7年度 バスロケーションシステムの運用拡大(停留所36基、公共施設型5基)
- 以後、順次増設し、現在248基(公共施設内6基除く、平成18年3月末現在)

(5) 案内表示の改善

【企画総務部企画課、自動車部営業課・運輸課、高速鉄道部営業課・運輸課】

⇒ 市バスや地下鉄の案内表示を工夫し、すべてのお客様に分かりやすく利用しやすいように改善します。

18年度予算額は
2,782万円です。



18年度は...

- 市バス・地下鉄の路線図を、お客様がより分かりやすいように改善します。
- 地下鉄の主な乗換駅に乗継案内板を設置します。
地下鉄烏丸線4駅の出入口のシンボルマークを四箇国語表示に変更します。

17年度の主な取組

地下鉄4駅（丸太町、三条京阪、京都市役所前、二条）に地下鉄・市バス乗継案内板を設置（17年度までに累計10駅に設置済）

(6) ITの活用による情報提供

【企画総務部総務課、高速鉄道部営業課】

⇒ 地下鉄駅など電波が届かないところに設置できるよう「ポケット・バスロケ」の技術を応用した表示画面の開発を行い、「市バス接近表示器」を地下鉄の駅に設置します。

18年度予算額は
600万円です。



18年度は...

- テレビ画面でバスロケーションシステムと同様のバス接近情報が得られる「市バス接近表示器」を地下鉄の3駅に設置します。

17年度の主な取組

地下鉄今出川駅構内に設置した「市バス接近表示器」の運用開始

2 お客様の増加、収入増のための積極的な営業推進



(1) 地下鉄の増収・増客対策としての駅施設の有効利用等の取組

【企画総務部企画課、高速鉄道部営業課】

⇒ 駅の空きスペースを使っての「駅ナカビジネス」の展開を進め、駅の魅力アップと増収を図ります。

18年度予算額は
2,200万円です。



18年度は...

○烏丸線北大路駅に「ミニ・コンビニ 都くん」を設置し、駅の利便性を向上させます。
乗降客の多い駅で、他の業態も含めた「駅ナカビジネス」の展開を検討します。

今までの主な取組

- ・「駅ナカビジネス」の展開
平成15年3月 「ミニ・コンビニ 都くん」四条駅店 開店
平成16年4月 「フレッシュジュースショップ」京都駅店 開店

(2) 広告料収入増対策の実施 【企画総務部企画課】

⇒ 既存の広告枠の活性化と新たな広告の導入を推進し増収を図ります。

18年度広告収入予算額は
10億1,183万円です。

内訳 バス 3億9,743万円
地下鉄 6億1,440万円



18年度は...

○新たにアドコラム（柱巻）広告、ポスターボード、カード券面広告、ホームページのバナー広告など魅力ある広告の導入を推進し、増収に積極的に取り組みます。
○既存広告設置場所の拡大や広告の種類を増やすなど活性化を図ります。

今までの主な取組

- ・ラッピングバス所有台数 42両（平成18年3月末現在）
- ・広告種類数 市バス - 23種類、地下鉄 - 42種類（平成18年3月末現在）

(3) ICカード乗車券などの発売 【企画総務部企画課】

⇒ お客様にとってシンプルで分かりやすく、ご利用いただきやすい乗車券を発売します。

18年度予算額は
4億9,300万円です。



18年度は...

- 地下鉄事業では、定期入れや財布からカードを出すことなく改札機にかざすだけで通過できる、大変便利なICカード乗車券「PiTaPa」を平成19年春からの導入に向け、駅務機器の整備を進めます。
- 他都市からのお客様にもお使いいただきやすい多彩な企画乗車券（スルッとKANSAI 京都1day チケット、いい古都チケット、京都花まるチケット、京都観光一日乗車券「京めぐり」、奈良・斑鳩 1day チケット、京都地下鉄・京阪大津線 1day チケットなど）を観光等のシーズンに応じて発売します。

17年度の主な取組

- ・「市バス通勤フリー定期券」の新発売（平成17年4月1日から）
- ・「京都地下鉄・京阪大津線 1day チケット」の新発売
（平成17年9月17日～12月4日、平成18年3月11日～6月4日）
- ・ICカード乗車券への対応が可能な複数枚対応改札機への更新（29基、累計 177基中90基設置）
- ・地下鉄運賃改定にあわせて（平成18年1月7日から）
地下鉄通勤定期券と「市バス通勤フリー定期券」がセットになった乗継定期券の新発売
「地下鉄 1day フリーチケット」の新発売（小児券も新発売）
1,000円で1,100円分利用できる「トラフィカ京カード」1,000円券の新発売（小児券も新発売）

3 一層の経営健全化の推進



(1) 「管理の受委託」の拡大 【自動車部営業課】

⇒ 交通局が運賃・ダイヤ・路線等の決定に責任を負う公営としての長所を活かしながら、民間並みのコストで運営を行うため、運行を民間バスに委託する「管理の受委託」を行い、市バスの経営体質を強化します。

18年度予算における削減効果額は22億1,100万円です。



18年度は...

○当初の計画を1年早め、19年3月までに西賀茂営業所の一部系統を民間バス事業者に委託します。この結果、市バス車両750両のうちの2分の1(375両)の受委託が完成します。

今までの主な取組

目標：750両のうちの2分の1(375両)の受委託

11年3月～	横大路営業所の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	82両
16年3月～	洛西営業所の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	205両
17年3月～	九条営業所の一部の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	262両
18年3月～	梅津営業所の一部の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	324両

(2) 総人件費の抑制 【企画総務部職員課】

⇒ 職員数の削減や給与の減額により、民間並みの運営コストを目指します。



18年度は...

○引き続き、職員数の削減、管理職手当の減額、休日勤務手当の解消により、更なる人件費の削減を行います。

今までの主な取組 (ルネッサンスプラン期間中における職員数の削減実績)

14年度1,807人 18年度1,293人 正規職員514人削減

削減計画	14.5.1(a)	15.5.1	16.5.1	17.5.1	18.5.1(b)	(b)-(a)
市バス事業	1,212人	1,020人	937人	871人	784人	428人
地下鉄事業	595人	564人	551人	535人	509人	86人
合計	1,807人	1,584人	1,488人	1,406人	1,293人	514人

・市バス事業では「管理の受委託」の拡大、地下鉄事業では嘱託化(若年嘱託の採用等)に取り組んできた。

(3) 経費の削減 【企画総務部財務課】

⇒ あらゆる経費を減らすことにより、民間並みの運営コストを目指します。

18年度予算における
経費削減効果額は
8億2,100万円です。
(達成度90%)

内訳 バス 3億3,300万円
地下鉄 4億8,800万円



18年度は...

○20年度時点で、14年度予算比1割(9億800万円)の削減となるよう、事務事業評価の結果を活用するほか、委託業務の内容等の点検を行うなどにより、経費削減を図ります。

今までの主な取組 (ルネッサンスプラン期間中の削減実績)

- 15年度予算での削減実績... 3億7,100万円 (達成度41%)
- 16年度予算での削減実績... 6億9,800万円 (達成度77%)
- 17年度予算での削減実績... 7億8,100万円 (達成度86%)

(4) 「生活支援路線」の効率的・効果的な確保策の実施

【企画総務部企画課・財務課】

⇒ ご利用が少なく運営コストを民間並みに縮減したとしても収支が赤字となる「生活支援路線」について市民の足を守るため、路線の維持を図ります。

18年度における一般会計からの
繰入額(生活支援路線補助金)は
11億2,100万円です。
また、実証実験の予算額は
1,000万円です。



18年度は...

- 市の一般会計から「生活支援路線」に対する補助金を受け、市バスのネットワークを維持していきます。
- 民間事業者と連携して17年7月から実施している「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」を、18年度も継続し、4月1日から新たな利便性向上の取組として、鉄道駅との接続や病院経由に運行経路を変更したほか、効率的な運営の取組として、ご利用実態に合わせダイヤを見直ししました。今後は、平成17年度の実験結果に加え、平成18年度の状況も踏まえ、平成19年度以降の運行のあり方について方向付けを行います。

今までの主な取組

- 14年度 「京都市交通事業審議会」に「生活交通」の確保方策やサービス水準について諮問
- 15年度 「京都市交通事業審議会」から、今後も公営企業として維持していく旨の提言が提出される。
- 16年度 市の一般会計において繰入(10億1,500万円)
「京都のバス事業を考える会」において、生活支援路線の確保方策及び安全・安心・快適な市バスサービスのあり方について協議 中間答申(17年1月) 最終答申(17年4月)
- 17年度 市の一般会計において繰入(10億5,400万円)
「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」実施(17年7月~)
- 18年度 市の一般会計において繰入(11億2,100万円) 予算計上
「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」は4月から一部経路やダイヤの修正を行い、継続実施

(5) 地下鉄事業の長期収支改善

【企画総務部財務課、高速鉄道部運輸課】

⇒ 速くて便利な地下鉄ですが、建設費が巨額で、その返済が大きな負担となっていることから、「地下鉄事業経営健全化計画」の着実な推進により、地下鉄の財政基盤の強化を図ります。

18年度予算における一般会計からの経営健全化のための出資額（収入）は68億2,000万円です。
また、18年1月の運賃改定に伴う一般会計からの地下鉄利用者負担緩和支援補助金（収入）は5億円です。



18年度は...

○国の地下鉄事業経営健全化対策制度を活用して策定した「地下鉄事業経営健全化計画」（計画期間：16年度～25年度）の着実な推進を図るため、交通局の人件費、経費の削減や建設費の削減、計画的な運賃改定の実施、市から総額約640億円（18年度は68億2,000万円）の出資金により、不良債務の抑制を図り、交通局の財政基盤を強化します。平成18年1月の運賃改定の実施による増収で14億円、駅職員の嘱託化など交通局の更なる健全化努力で1億円、さらに一般会計からの地下鉄利用者負担緩和支援5億円を合わせ、「地下鉄経営健全化計画」で見込んでいた20億円の増収額を確保します。

今までの主な取組

・「地下鉄事業経営健全化計画」に基づく一般会計からの健全化出資金（16年度～）

16年度決算 57億2,500万円

17年度予算 70億8,600万円

・運賃改定の実施 平成18年1月7日から（9年4か月ぶり）

地下鉄運賃の推移

昭和59年 4月 初乗り運賃 120円 140円

昭和63年10月 " 140円 160円

平成 4年 4月 " 160円 180円

平成 8年 9月 " 180円 200円

平成18年 1月 " 200円 210円

・運賃改定の実施にあわせた更なる健全化の取組と一般会計からの支援

交通局の主な取組内容

・駅職員業務の一部民間委託化による60人の職員削減

・東西線二条～天神川間の総建設費の削減（220億円の削減：745億円 525億円）

一般会計による地下鉄利用者負担緩和支援補助金の創設

・運賃改定にあたってお客様への負担軽減と新たなサービスを実施

地下鉄一日乗車券（大人600円、小児300円）や1,000円で1,100円利用できるトラフィカ京1,000円カードの新発売やあわせて小児券の新設等。

小・中・高校生の通学定期券を改定前運賃に1年間（平成18年1月7日～平成19年1月6日）の据置き

(6) 職員の育成によるお客様サービスの向上 【企画総務部職員課・研修所】

⇒ お客様第一の安全運転や親しまれる接遇など、更に高い志をもって、お客様サービスの向上を目指した研修に取り組みます。

18年度予算額は
365万円です。



18年度は...

全職員を対象とする所属研修では、交通局の現状を再認識し、経営感覚に優れ、お客様のニーズに能動的に対応できる職員の育成を図ります。

市バス運転士研修では、研修用模擬コースによる安全運転実技やお客様への対応実習などの取組を行います。

地下鉄職員研修では、事故防止や異常時の処置訓練、お客様への対応実習などの取組を行います。

○これまで実施してきた「目標管理制度」に替えて、管理職員が自ら目標を設定して業務を遂行し、期末に達成度を評価することで、評価結果を次期の活動に生かす「業績評価制度」を実施します。

17年度の主な取組

- ・所属研修（全職員対象）延べ受講者数 2,085人（受講率 99%）
- ・市バス運転士セミナー（3年サイクルで実施）延べ受講者数196人（受講率 100%）
- ・地下鉄定期教育訓練 延べ受講者数 2,236人（受講率 100%）

4 平成19年度の地下鉄東西線(二条～天神川間)の開通に向けた取組の推進



(1) 地下鉄東西線の延伸 【建設室総括・計画担当】

国の道路財源の活用を図り徹底したコスト削減を行うとともに、工事の安全管理に努め、東西線(二条～天神川間)の延伸の早期開通を目指していきます。

18年度予算額は
104億3,200万円です。

建設局事業の道路補助対象分
(55億円)を含む。



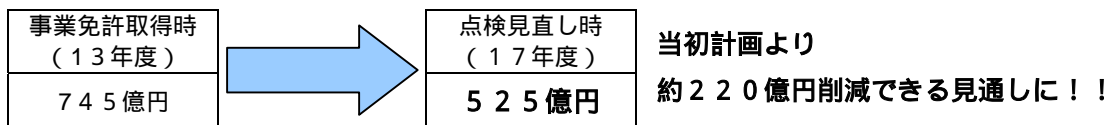
18年度は...

地下鉄東西線(二条～天神川間)の当初開通予定の平成20年3月を早め、早期の開通を目指し、工事の安全管理や徹底したコスト削減に努めるとともに、土木工事と並行して行う、軌道、駅の内装、電気設備や出入口などの各種建築・設備等工事の連絡調整を図り、より一層の事業推進に取り組みます。

今までの主な取組

- ・地下鉄東西線(二条～天神川間)

総事業費



(主な削減理由)

天神川駅周辺整備事業との同時施行や建設発生土の再生利用による工事費削減

物価上昇率の変化や企業債利息の差等による減

現有車両の効率的な運用により、計画で見込んでいた2編成の車両増備の見直しによる減

平成13年 5月 9日 鉄道事業許可取得

平成14年 11月 8日 工事着手

平成17年 12月 全区間のトンネルが貫通

平成18年 3月 31日 土木工事全体の進捗率は90.3%

(19年度中開通予定)

5 市バス・地下鉄のバリアフリー化、低公害化の推進



(1) バリアフリー化の推進 【自動車部技術課・高速鉄道部施設課】

⇒ ノンステップバス(床の低いバス)の導入や、地下鉄駅での多目的トイレへの改修などにより、バリアフリー化を進め、人にやさしい市バス・地下鉄を目指します。

18年度予算額は
27億7,781万円です。



18年度は...

- ノンステップバスを101両導入します。(今まで導入したバス車両をあわせると全車両の約60%となります。)
- 従来の車いす対応型トイレについて、地下鉄3駅で、オストメイト(人工肛門等)の方にもご利用いただける多目的トイレに改修します。
- 地下鉄京都駅南口改札前の連絡通路のスロープの勾配を改善します。

17年度の主な取組

- ・市バスのバリアフリー化
ノンステップバス導入数 96両
累計 354両 (17年度末現在、全750両の約47%)
- ・地下鉄のバリアフリー化
多目的トイレへの改修 4駅で実施(北大路駅、丸太町駅、四条駅、東山駅) 累計7駅

【参考】各都市交通局のノンステップバス導入状況(平成17年度末)

都市名	京都市	仙台市	東京都	川崎市	横浜市	名古屋市	大阪市	神戸市
導入率(%)	47.2	5.9	56.0	34.1	32.7	28.6	35.2	25.2

(2) 市バス車両の低公害化 【企画総務部総務課、自動車部技術課】

⇒ 天然ガスバス(天然ガスを燃料とするバス)やアイドリングストップバス(停車時にエンジンが止まるバス)などを導入し、環境にやさしい市バスを目指します。

18年度予算額は
27億3,199万円です。



18年度は...

- 18年度のノンステップバス101両の内訳については、天然ガスバスが3両、アイドリングストップバスが98両の導入になります。
- バイオディーゼル燃料(廃食用油を再生した「みやこ・めぐるオイル」)を積極的に導入し、地球環境の保全に寄与します。
18年5月から市バス2両において、バイオディーゼル燃料100%使用による走行実験を約2年間実施します。

17年度の主な取組

- ・天然ガスバス導入数 3両 (合計 750両中 33両)
- ・アイドリングストップバス導入数 93両 (合計 750両中 375両)
- ・DPF設置車両数 5両 (合計 750両中 40両)
- ・バイオディーゼル燃料(20%混合)使用車両数 95両(17年度末現在)

6 京都市が進める「歩いて楽しいまちなか戦略」への積極的な参画



(1) 「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」によるTDM施策との連携

【企画総務部企画課、自動車部営業課・運輸課】

⇒ パーク&ライドをはじめとする TDM(交通需要管理)施策と連携し、「歩くまち・京都」の実現を目指します。



18年度は...

○京都市が都心地域の抜本的な交通環境改善として推進する「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」に積極的に参画します。

「嵐山交通対策研究会」「東山交通対策研究会」と連携し、秋の観光シーズンに行われるパーク&ライドなどの取組に協力するなど、公共交通優先型の「歩くまち・京都」の実現に向け、交通事業者としての役割を積極的に進めていきます。特に、東山地区では、昨年度に引き続き、春と秋の観光シーズンに東山地区と京都駅を結ぶ「東山シャトルバス」の運行や、道路混雑時には、市バス(100号、206号などの東山三条 京都駅前)から地下鉄(東西線東山駅 烏丸線京都駅)への振替輸送などに取り組みます。

17年度の主な取組

嵐山観光地交通対策及び東山交通社会実験への参加(春秋の観光シーズンに「東山シャトルバス」の運行、東山駅での振替輸送の試行実施など)

【掲載先】

本誌は、交通局のホームページに掲載しておりますので、興味をもたれた方は、下記のアドレスにアクセスしてみてください。

京都市交通局ホームページ <http://www.city.kyoto.jp/kotsu/>

【お問い合わせ先】

本誌に書かれている内容で何かご不明な点がございましたら、下記の担当課までお気軽にお問い合わせください。

本誌全般について

受付時間 平日のみ 8時50分～17時20分

企画総務部企画課

075-822-9108 FAX 075-822-9247

市バス・地下鉄全般について

受付時間 平日・休日とも 8時30分～18時30分

京都市交通局案内所

075-801-2561

市バスについて

- | | | |
|-------|----------|--------------|
| ○ 運賃 | 企画総務部企画課 | 075-822-9104 |
| ○ 路線 | 自動車部運輸課 | 075-822-9150 |
| ○ ダイヤ | | |
| ○ 運行 | | |
| ○ 車両 | 自動車部技術課 | 075-822-9155 |
| ○ その他 | 自動車部営業課 | 075-822-9143 |

地下鉄について

- | | | |
|-------|----------|--------------|
| ○ 運賃 | 企画総務部企画課 | 075-822-9104 |
| ○ 運行 | 高速鉄道部運輸課 | 075-822-9168 |
| ○ 施設 | 高速鉄道部施設課 | 075-822-9185 |
| ○ 建設 | 建設室総括担当 | 075-822-9176 |
| ○ その他 | 高速鉄道部営業課 | 075-822-9164 |

市バス・地下鉄共通

- | | | |
|--------------------|----------|--------------|
| ○財政状況 | 企画総務部財務課 | 075-822-9127 |
| ○人件費等 | 企画総務部職員課 | 075-822-9117 |
| ○職員研修 | 企画総務部研修所 | 075-643-4601 |
| ○ホームページ、パートナーシップなど | 企画総務部総務課 | 075-822-9165 |
| ○イベント、オリジナルグッズなど | 企画総務部企画課 | 075-822-9107 |